

会 議 議 事 録 (抄)

会 議 名	2019 年度第 2 回教育課程編成委員会 バイオ・環境系分科会
開 催 日 時	2019 年 11 月 22 日 (金) 15 時 40 分～17 時 05 分
会 場	専門学校東京テクニカルカレッジ 1104 教室
参 加 者	外部委員：6 名 内部委員：5 名 ＜外部委員：6 名＞ (順不同・敬称略、役職は委員名簿参照) 池上 正人 (特定非営利活動法人日本バイオ技術教育学会理事長／東北大学名誉教授) 市川 和登 (トコスエンタプライズ株式会社) 早乙女 俊行 (ペントロン ジャパン株式会社) 佐々 義子 (特定非営利活動法人くらしとバイオプラザ 21 常務理事) 藤沼 俊則 (NEC 株式会社 都市・交通基盤事業部／グローバルビジネス推進部 マネージャー 兼 医療ソリューション事業部エキスパート) 水谷 圭亮(水 ingAM 株式会社 首都圏支店 首都圏 RSC 部) ＜内部委員：5 名＞ 大江宏明 (学校法人小山学園 専門学校東京テクニカルカレッジ バイオテクノロジー科科長) 大藤道衛 (学校法人小山学園 専門学校東京テクニカルカレッジ バイオテクノロジー科) 松井奈美子 (学校法人小山学園 専門学校東京テクニカルカレッジ バイオテクノロジー科主任) 今野祐二 (学校法人小山学園 専門学校東京テクニカルカレッジ 環境テクノロジー科科長 議長) 井上綾子 (学校法人小山学園 専門学校東京テクニカルカレッジ 環境テクノロジー科主任 書記)
会 議 録	＜バイオ・環境系分科会＞15 時 40 分～17 時 05 分 - 議長挨拶 2019 年度第 1 回議事録の確認、意見および訂正 ・前回議事録 4.4.2「教育活動の外部へのアナウンス」について ⇒区報に載せる時は 3 カ月前には準備しておく必要がある。自戒を込めて言いたい事だが、(日程や内容が) 3 カ月前に決まっていなかったから区報に載せられないというのは言い訳にならない、主催者としては頑張らなければならない。頑張る団体は主催者が 4 月に 1 年分を広報している。 ⇒年間の全ての予定を決定できない場合は、「変更もあります」と表記してはどうか。 ⇒日程と大まかなテーマくらいは決めた方がよい。 ・前回議事録参加者の訂正 ⇒内部委員の参会者は大江、今野、大藤、松井の 4 名。井上は参加していない。 2019 年度第 2 回議題の確認 ※詳細は次頁以降参照のこと。 3.1 2020-2021 年度カリキュラム、シラバスについて 3.2 専門人材育成訓練受託について 3.3 就職内定状況について 3.4 教育活動状況について 3.4.1 リアルジョブプロジェクト(RJP)の取組み状況・課題 3.4.2 外部へのアナウンス活動 (市民講座：TTC バイオ-カフェ、Eco-Café) 3.5 今年度の国内環境研修について 3.6 その他の意見 2019 年度第三回教育課程編成委員会の連絡 - 閉式の辞

3.1 2020-2021 年度カリキュラム、シラバスについて

3.1.1 環境テクノロジー科のカリキュラム、シラバスについて

現行のカリキュラムから変更なし。

3.1.2 バイオテクノロジー科のカリキュラム、シラバスについて

カリキュラムの一部構成を変更し、今年度中に東京都に申請する。新カリキュラムの実施は 2021 年度からを計画しており、学生募集は 2020 年度より開始する。
(バイオテクノロジー科の新・旧履修科目履修時間表およびカリキュラムフローチャート案は、第一部合同会議の配布資料に綴じてある。変更内容の詳細は履修時間表およびカリキュラムフローを参照のこと)

3.3.3 コマシラバスの見直しについて

今年度は各授業のコマシラバスが、シラバスに対して見合ったものになっているか、全学科でコマシラバスの見直し作業を行っている。

3.2 専門人材育成訓練受託について

東京都が求職者を対象に民間の教育訓練機関に職業訓練を委託して実施するもので、今年度 4 月から開始されている。今年度はバイオテクノロジー科で 3 名の訓練生を受け入れており、来年度はバイオテクノロジー科で 5 名、環境テクノロジー科で 5 名、Web 動画クリエイター科で 3 名の受け入れ認可が下りている。2020 年 1 月頃に説明会を実施、希望者を募り、3 月 1 日ごろに入校者が決まる予定である。

「東京都からの訓練生」を受け入れることになるため、訓練生は日報を書く必要がある。月間報告や年間計画、欠席に関する書類も提出するため、学校側も事務手続きはかなりかかるようになる。

3.2.1 専門人材育成訓練受託について質疑・応答

・政府が行っている就職氷河期世代への対策も入っているのか。

⇒対象は 45 歳未満で、氷河期世代の対策でもある。

・どこが募集するのか。

⇒募集は東京都で、ハローワークが窓口になっている。学校が募集をかけたり、案内したりすることはない。ただし、(受講内容に関する)説明や見学会は学校が行う。

・訓練生のレベルをチェックすることはしないのか。

⇒ハローワークでカウンセリングを受けた上で(ハローワークから)紹介されて説明会に来られる方が対象なので、面接は行いが、学力試験はない。面接は校長や科長が行っている。受入枠に対して多数の応募がある場合は選抜も考えられる。

・特別に教育することはあるのか。

⇒特別な授業ではなく、一般の学生と同じ授業を受ける。

説明会には、いろいろな方が来られるので年齢や経歴も様々。(就職については)現実的な問題もあるので、卒業後こういう仕事に就けるかどうかは正直に説明している。昨年は 12~13 名が説明会に参加したうち、応募は 3 名であった。

・出口のフォローも学校がするのか。

⇒バイオテクノロジー科であればバイオに関する仕事もしくは正社員で就職できるように指導していくことになる。よほどのことがない限りはそういう成果を出していく、というのが基本的な考え方にあると思う。

・例えば、80%がバイオの職業に就いていなければならない、というような取り決めはあるか。
⇒今のところ、そのような取り決めはない。

・他の学生と年齢に差が出ると思うが、学生同士のコミュニケーションはどんな様子か。
⇒今年度の対象者は本校の学生の年齢層と変わらないので、特に年齢差によるものは感じられない。学生同士のコミュニケーションは、年齢よりも個人の特性によるものが大きいと思う。

3.3 就職内定状況について

就職内定率は学校全体の目標が8月末で90%、バイオテクノロジー科・環境テクノロジー科の個別目標は8月末80%である。現在の内定率はバイオテクノロジー科100%環境テクノロジー科85.7%で、留学生1名、日本人1名が就活を継続中である。

3.4 教育活動状況について

3.4.1 リアルジョブプロジェクト(RJP)の取組み状況・課題

●バイオテクノロジー科の報告

前回の報告から大きな変更なく、取り組んでいる。

バイオテクノロジー科はアイスコーヒーのブレンドがほぼ決まり、来年の春(今年度中)には決定して提供できるようになると思う。紅茶の方は、アイ스티ーのブレンドは決定しており、ホットティーのブレンドをもう少し検討したいという希望が学生から出ている。実験体験教室は来年3/26に決定し、子供たちに楽しんでもらえる内容を検討している。早めに決めてアナウンスをしていきたい。人数は内部の関係者も含め26~28名くらいは集まっている。

(コーヒーや紅茶の)ブレンドはバイオテクノロジー科内で3つくらいまで絞り、試飲会を実施している。90名~100名以上からデータをとることを目標に他学科から各科10名くらいずつ集めて感応評価を実施している。今はN=50~100程度。

外部委員からの意見・アドバイス

・私たちがイベントを行っているが、イベントをどう評価するか。参加者は「学んで楽しかった。良かったな。」と思うが、企画者として企画者・スタッフ・会場を貸した人も含めて全員の満足度が上がるべきだと考えている。最近、スタッフの満足度をヒアリングしている。お客さんだけ喜ばせれば良いイベントということではなく、関わった人皆がwin-winになるようにしていく。そうしなければ、お金が無くなったらやめるということになってしまう。関わった学生に学びがあったとか既に評価しているのかもしれないが、単に「参加人数が増えたから良い」ということではなく、広報面、企画面、実施面など考えて評価できるようなものがあると良い。そうすれば評価手法も開発できて良いのではないかなと思う。

・反省会も運営の仕方では効果がずいぶん変わってくると思う。先に良かった点、うれしかった点を言い合ってから反省すべき点を話し合えば、本当に反省すべき点について意見が上がると思う。

●環境テクノロジー科の報告

環境テクノロジー科も前回の報告と大きな変更はなく、4つのグループに分かれて活動している。緑化班は緑化整備を目指し、インテリア科の先生の指導の下、木製のプランター入れを制作中である。装置の自動制御に取り組む班は、数年前に学生が制作した廃水処理装置の自動制御がうまく働かないため、この原因を探り修理することを目標に活動している。海洋プラスチックごみの問題に取り組む班は、現状を調べてきて、次に、自分たちに何ができるかという事に視点が移っている。テラカフェでもプラスチック製品が使われているため、校長に代替製品の提案をしようと考えている。水生生物の分類・同定に取り組む班は、実習で採取してきた未分類の水生昆虫をできるだけ同定し、標本として整理している。現状、かなりの数同定が進んでいる。

外部委員からの意見・アドバイス

・水生昆虫の分類・同定について

昔は植物の絵も著作権が厳しかったが、今はデジカメで撮れば簡単にカードや図鑑にできる。有名になったきしわだ自然資料館のチリメンモンスターは、一人の学芸員がスタッフと考えて、今は本やビデオ、カードなども出来ている。彼らはいろいろな教育ツールを作って、漁業関係者と協力して漁業への理解を深めたり、水族館と食卓を結び付けたり色々な活動をしている。例えば水生昆虫のカードを作って、井の頭の水生物館のような水生生物を扱っているところに提供すれば、成果を見える化できて良いのではないか。成果を外に出していくことが出来ればもっと良い。

3.4.2 外部へのアナウンス活動（市民講座など）の実施状況について

●バイオテクノロジー科の実施状況

【TTC バイオカフェ】主催：特定非営利活動法人くらしとバイオプラザ 21, 共催：バイオテクノロジー科

・第 29 回

テーマ：カレーライスと食のサイエンス

開催日：2019 年 5 月 10 日（金）

講師：大阪府立大生命科学研究科教授 小泉望先生

・第 30 回

テーマ：パーソナルゲノム

開催日：2019 年 11 月 1 日（金）

講師：東京医科歯科大学難治療疾患研究所分子疫学教授 村松正明先生

・第 31 回：2020 年 2 月もしくは 3 月に実施予定

【その他講習会など】

・ヒトゲノムを用いる実験教室 私たちの DNA

開催日：2019/10/19（土）

主 催：特定非営利活動法人くらしとバイオプラザ 21

共 催：バイオテクノロジー科

・遺伝子検査活用セミナー

開催日：2019/12/12（木）

主 催：日本 DNA アドバイザー協会

共 催：バイオテクノロジー科

●環境テクノロジー科の実施状況

【Eco-Café】主催：環境テクノロジー科, 共催：一般社団法人環境教育振興協会

・平成 30 年度第 3 回

テーマ：環境と分析

開催日：2018 年 11 月 30 日（金）

講師：内藤環境管理株式会社 竹下尚長氏

・平成 30 年度第 4 回

テーマ：2019 年 2 月 15 日（金）

	開催日：木を計る、測る、量る 講 師：公益財団法人日本合板検査会 柳澤健二氏 ・令和 01 年度第 1 回 テーマ：海が終わってしまえば地球は終わりだ！ 開催日：2019 年 6 月 14 日（金） 講 師：冒険写真家・水中写真家 豊田直之氏 ・令和 01 年度第 2 回 テーマ：ミツバチから広がる新しい価値、都市と自然が生み出す未来 開催日：2019 年 9 月 20（金） 講 師：銀座ミツバチプロジェクト 田中敦夫氏 ・令和 01 年度第 3 回 テーマ：鉛筆製造の存在価値の追求から生まれた環境商品 開催日：2019 年 11 月 15 日（金） 講 師：北星鉛筆株式会社 取締役会長 杉谷和俊氏 ・令和 01 年度第 4 回は 2020 年 2 月に実施予定 3.5 今年度の国内環境研修について 昨年度まで小笠原諸島の父島で実施していたが、カリキュラムの見直しにより本年度初めて屋久島にて実施することとなった。 ・実施時期：2020 年 3 月 9 日～2020 年 3 月 12 日 ・参加人数：10 名申込のところ 1 名キャンセルになり、9 名で実施予定。 3.6 その他意見 外部委員からの意見・アドバイス ・会社では報告書を書かないといけませんが、うまく書けない方が意外と多い。是非、レポートの書き方にも力を入れてもらいたい。 ・企業への就職内定率だけでなく留学や編入学、大学とのコネクションがあれば PR にいれてはどうか。特にライフサイエンスは学問に非常に近いのでアカデミア色が出て良いのではないか。 ・社会人枠、海外帰国子女枠などがあるので、学生に紹介してはどうか。 ・学費が負担になる場合は、無償化制度を利用して大学へ行くことはできないか。 内部委員からの回答 ・大学編入についてはオープンキャンパスの配布資料に記載している。 ・以前は 1/4 の学生が編入学を希望したこともあったが、現在は大学編入を希望する学生がほとんどいない。そのため、希望者にのみ編入試験の情報を提供するようにしている。 ・編入を希望していた学生も、勉強をしていく中で就職希望に変わるようである。 ・2 年前に中国からの留学生が留学生枠で編入した実績はある。 ・無償化の認定を受けている大学であれば、対象者は利用可能である。 4. 2019 年度第三回教育課程編成委員会の連絡 2020 年 3 月 12 日（木）実施予定 5. 閉式の辞（今野） 17：05 終了
--	--

以上